

初の合同勉強会を実施

正札青年部

浅草紙器ゼミナールと

横のつながり拡大

東京都正札シール印刷協同組合青年部（鈴木健二部長）は9月9日、台東区立春区民館で催された浅草紙器ゼミナール（茂呂克之会長）の9月度定例会に参加。2団体による初の合同勉強会を実施した。

浅草紙器ゼミナールは、1960年設立の紙器業界の若手経営者が運営する老舗組織。毎月定例会を実施しており、今期の活動テーマ「世界を駆けよう」に基づき、今回、両団体に所属する白井印刷㈱の白井伸夫氏が発起人となり、横のつながりを拡大したい両者の思惑が一致して実現した。冒頭、茂呂会長は次のようにあいさつした。

「今期はこれまで合紙、段ボール、化成品など分野ごとにチームを組む、講演を通じて会員の相互理解を

図ってきた。今回はシールラベル印刷という異業種の知識を学ぶだけでなく、他団体の方々の考え方から大きな刺激を得て、広い視野を持つてもらいたい」

正札青年部からは鈴木部長があいさつ。浅草紙器ゼミナールの会員らに感謝の意を表した後、組織概要を紹介し「お互いにとって良いつながりが生まれるきっかけとなれば」と述べた。

最初に、正札青年部の竹岡慎一副部長が「売り方ゼミナール」をテーマに講演。用途、数・色・形、納期、見積もり、注文のフローチャートに沿って、ラベルができるまでの一連をシミュレーションした。

続いて、部員自ら自社の技術や製品を紹介。「小ロットからのスピードくじ」（㈱カムシーリング）、「エンジン



あいさつする茂呂克之会長（右）と鈴木健二部長（中央）

ンタンクの給油口に使用されるプレート」（㈱八宝シール）「リボシール」（白井印刷㈱）「透明内貼りシール」（㈱スペースバック）「シリアルナンバー、QRコードの可変情報ラベル」（東邦マーク㈱）を説明後、ほかの部員も自己紹介した。配布された各社のサンプ

ルの粘着性はどれくらい持つか」「刃に付着するのを抑える方法や効果的に拭き取るコツはあるか」「以前こういった抜き案件があったが、どういうやり方が適当だったのだろうか」など実務的な内容以外に「組織運営のマンネリ化や閉塞感をどう払拭しているの

か」といった話題も。正札各部員が回答しながら、活発な意見交換を行った。

次に浅草紙器ゼミナール会員、㈱佐藤紙器製作所の佐藤裕人氏ら4人による貼り箱の講演では、目の前で箱を成形する実演を披露。かぶせ箱、落とし蓋箱、観音開き箱などの構造、用途、製造手順の説明を受け、正札青年部員らは貼り箱製造の実態を学んだ。

終了後には懇親会を開催。お互い積極的に名刺交換を行い交流を深め、盛況のうちに散会した。